

第34期修了式 学長式辞

第34期の修了式にあたり学長として式辞を申し上げます。

一年間学習を積み重ねてそれぞれが技術や教養などを身に着け、さらに学友との親交を深められ人生に一層の彩を添えられて本日修了式を迎えられた皆さん、誠におめでとうございます。

このおめでたい席に来賓として北部支所長清水直樹様、福山市議会議員 小川眞和様、生田政代様、清水寛敏様、福山市北部地域振興課小林課長様、そして皆様をご指導いただいた講師の先生方に錦上花を添えて頂いて盛大に修了式を盛大に挙行できますことをうれしく思い深く感謝申し上げます。

さて今年度は外国での紛争などがとても心配になってきています。平和で安定した日本で暮らすことがどんなに幸せかを実感していますが、多くの外国人が日本にやってきて、東京の浅草や京都の観光地などはたくさんの観光客であふれていて、その地域の皆さんの生活に不自由さが表れています。米の値段を始め多くの食料品の値上げは驚くべきことで、コロナ禍の3~4年の間に世の中は大きく変わりました。

市民大学に目を向けると、特別講座への参加や先生や学生の作品の鑑賞するために市民大学に足を運んで来られた市民の方は増えたと思っています。

しかし、学生数は千人以上の学生が元気に通学されていましたが、新型コロナが感染拡大してからは800人台に減っています。体調的に課題が出来たのでしょうか。コロナで家にいることが増えたことで、外出する楽しさを忘れたのでしょうか。学生が減りました。70歳まで働く意欲があれば働くことができる環境が整ってきています。そのためでしょうか60歳代の男性学生の人数が増えてまいりません。フルタイムで勤務を続ける人や働きながら町内会の役員の仕事をしている人などが増えているのではないかと推察しています。さらに一年ごとに学生の年齢が上がり、生け花や書道など稽古ごとの科目は学生の人数が減っています。学生の確保が一段と難しくなっているようです。

しかし、途中で退学される方は思いのほか少なく最後まで熱心に学習に取り組まれました。先日行われた修了発表会の内容を見させていただくとその質の高さに感心させられました。絵画や書道、歌なども一年間の成果が表れていました。私は書道の授業を受けていますが、先生からは「どの科目も作品の質が上がっているように思うと」うれしい話をいただきました。コーラスの2クラスが今年度もコーラスフェスティバルに参加いたしました。リーデンローズのステージで堂々と日ごろの成果を披露していただきました。さらに油絵とパッチワークの大学院では展覧会に出品できるような素晴らしい作品ができています。竹芸は先輩たちに助言をいただきながら竹ひご作りから熱心に取り組まれました。少しずつではありますが学習の中身が充実していることを嬉しく思っ

ています。さらに今年度は、コーラスの奥野先生と海野先生によるクリスマスミニコンサートも開催し多くの学生さんの喝采をいただきました。皆さんに感謝申し上げます。

2月21日で次年度の一次の学生募集は終わりました。これからは二次募集を行います。さらに、特別講座を計画していますからどうぞホームページを見ながら通ってほしいと思っています。こう考えるのは単に市民大学の学生を増やしたいという気持ちだけではありません。2025年問題をご存じですか。これは戦後生まれの団塊の世代の人が後期高齢者になるのが今年なのです。

2025年問題の社会的影響は、まず、社会保障費の負担が重くなる、そして医療・介護の体制維持が困難になる、さらに後継者不足によって廃業がふえ経済の縮小を加速させることなどマイナスの状況が考えられてるのです。

さらに、25年後の2050年問題はもっと深刻かもわかりません。人生百年時代に生きる私にとってはちょうど百歳のころの話です。もう関係ないと思われるかもわかりませんが、子どもや孫が直面する問題なのです。若い者につけを残してはいけないのです。

認知症の人数は今が670万人から700万人、2050年には1000万人に達するのではないとも言われています。介護職の人が2~30万人も不足するのです。私が認知症になったら息子が仕事をやめなければならない問題にぶち当たるのです。介護のために仕事をやめたり、多くの時間を介護にさいたりして転職しなくてはならない人も出てきます。社会福祉関係の予算の比率が増え、年金も厳しくなると考えられます。私たちより若者の方が心配しているのです。社会問題なのです。

日常生活も大きく変わってきてもっとももっと変化の激しい時代になるでしょう。私たち高齢者が大変になるでしょう。自動運転が当たり前になったり、テレビ電話が日常的に使われるようになったりしてきっと便利になるでしょう。しかし、便利な世の中が私たちにとって必ずしも暮らしやすい状況になるとは限らないと考えています。マイナンバーカードに免許証や健康保険証と結びつける動きになっていると聞いています。大丈夫でしょうか？少々心配です。IT化のなかで、若い人についていけない状況もさらに激しくなります。

私たちが若いころにはなかった特殊詐欺の認知件数はおよそ2万1千件、722億円だそうです。被害にあったことは許しがたいことですが、そのお金の行方を考えてみると悲しくなります。裏社会へ流れたり、遊興娯楽やギャンブルに使われたりしたに違いありません。言い方を変えると、結果的に悪いことに加担してしまったとも言えかねません。ミヤンマーには犯罪タウンが形成されていると信じられないニュースがあり、高校生が2人も保護されたそうです。

目まぐるしく変わる社会にあわせて生き抜かなくてはならない時代なのです。

私たちだけでなく子や孫にも将来にわたって豊かな暮らしができるよう、元気で働き、楽しく過ごせるよう私たちが元気でなくてはならないのです。

そのためにも、趣味を自宅の近くで見つけて楽しく学び、近所に心の通う友達とコミュニケーションを豊かにしてつながる喜びを感じ、互いに感謝を伝えあいながら元気で過ごしていただきたいと切に願っています。私たちの北部市民大学のような生涯学習施設の役割が大きくなると考えています。

学生の皆さんに願うことの第一は、健康で過ごすこと。とくに市民大学で学習することで、新しいことに挑戦し、友達との交流を広げて認知症の予防を図っていただきたいと考えています。2点目は特殊詐欺から身を守ることです。詐欺が疑われる電話がかかってきたときに、いったん冷静になって市民大学や新聞などの情報を思いだしてほしい。これからもできるだけ情報提供を行います。明るく元気な高齢者になっていただきたい、高齢者の「こう」の字は幸福の「幸」の字を書く幸齢者になっていただきたいのです。そして健康寿命だけでなく活動寿命を延ばしていただくことを願っています。

これからも、皆さんが意欲をもって楽しく学習して自己実現が図れますことを祈念して式辞といたします。

2025年（令和7年）3月8日

福山市北部市民大学
学長 吉川信政